



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	<自著紹介> 『高等学校から職業社会への移行プログラムに関する研究 ーカナダ・アルバータ州の高校教育改革ー』（風間書房、2020年3月）
Author(s)	岡部, 敦
Citation	公教育システム研究, 19, 179-181
Issue Date	2020-11-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/80191
Type	departmental bulletin paper
File Information	090_AA11562857_19.pdf



< 自著紹介 >

『高等学校から職業社会への移行プログラムに関する研究 ―カナダ・アルバータ州の高校教育改革―』（風間書房、2020 年 3 月）

岡部 敦*

本書は、2011 年に北海道大学大学院教育学研究科に提出した博士論文に若干の加筆・修正を行ったものである。最初に執筆してから 10 年ほどが経過し、先行研究や事例などはすでに古くなってしまったことは否めない。しかし、取り上げた高等学校から職業社会への移行（STW）プログラムは、カナダ・アルバータ州の高校カリキュラムの中心をなすものとして現在まで継続しその内容も進化している。この 10 年の間に、高校教育を取り巻く環境も大きく変化し、それぞれのプログラムの役割に変化が見られるが、改革の基本理念は、本書で明らかにしたものをベースにしている。今後の研究を進め新たな成果を発表するためにもこの論文を出版し公開する必要があるとの考えに至った。

本文冒頭の「高校教育は何のために存在しているのか、また、生徒にとって本当に意味ある教育を提供しているのだろうか」という問いは、1999 年に大学院修士課程での研究を開始する前から、筆者が高校教員としての教育実践の中で常に問い続けてきたものである。元々の問題意識は、日本の高校生の約 70%が在籍する普通科高校は、入試の点数により学校ごとの生徒の学力や学習意欲、進路希望などかなりの格差があり、序列化、階層化されている。それにもかかわらず、提供される基本的なカリキュラム構成にはほとんど違いはなく、大学入学試験を最終目的とした学習内容を基本としているということにあった。学校教育法 50 条には、高等学校教育の目的として普通教育と専門教育を合わせ施すという二重性の概念が示されている。これは、戦前の複線型中等教育への反省を経て戦後の新制高校発足時に導入されたものであるが、現在に至るまでの間で、普通教育と専門教育を併置させる総合選択制の段階に止まっており、実現されたと言えるかは難しい。本書では、まず、日本の高校教育の課題として、この二重性の問題に着目し、関連する議論について整理した。その上で、共通の課題を持つカナダ・アルバータ州の高校教育カリキュラムにおける 3 つの学校から職業社会への移行（STW）プログラムを中心に、どのように改革が進められてきたかについて検討した。本文で取り上げた 3 つの STW プログラムとは、Career and Life Management (CALM)、Career and Technology Studies (CTS)、オフキャンパス教育の 3 つである。本書を出版するに当たって、改めて拙稿を読み込んでみると、これら 3 つのプログラムの成立過程およびカリキュラム上の基本概念には、カナダや日本で現在進行している高校教育改革の動きにつながる点があることに改めて気付かされた。詳しくは本書を読んでいただきたいが、以下に少しだけまとめてみる。

まず、CALM は、日本の高校でいえばホームルーム活動などで行われる進路指導に近いプログラムであるが、その中心概念は well-being であり、性教育・金融教育・労働者の権利などを含む幅広い学習内容から構成されている。重要な点は、雇用主の立場から求められるスキルの習得に終始するのではなく、学習者の主体性を重視したものであり、雇用主の求める人材要求に若者を当てはめる適応主義ではなく、それ自体が教育的価値を有するプログラムであると分析した。この論文を発表した 2011 年には、中央教育審議会のキャリア教育職業教育特別部会から、答申「今後の学校

* 札幌大谷大学准教授

におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」が発表された。この中では、キャリア教育を職業観・勤労観の育成という矮小化されたものではなく、若者の自立を促すものであり、必ずしも雇用主の人材要求に適応させるものではないとの考えに基づくものであることが述べられており、カナダの取り組みと共通する部分もあるが、後に発表された基礎的汎用的能力と CALM の基本理念には違いが見られる。日本のキャリア教育が何を指しているのかについては、さらなる検討が必要であるが、社会経済的格差が拡大する状況において、well-being 概念の導入について検討する価値があると考ええる。

CTS は、従来型の狭い範囲に特化された職業教育から、総合性 (generic) と専門性 (specific) の両方の概念を持つ新たな専門教育として開発されたものである。この科目の特徴の一つは、履修者のアセスメント項目が細かく規定されており、time-based から competency-based への転換を図ったことにある。本論文の執筆時点では、実践レベルでこの概念について確認することはできなかったが、その後の継続調査の中で、州政府の高校再構築 (High School Redesign) 政策の中に位置づけられていることがわかった。これは、端的に言えば、履修時間ではなく、何を修得したかをクライテリアに照らして明らかにすることができれば単位を授与する仕組みのことである。新型コロナウイルスによって日本の学校が長期にわたって休業を強いられ、未履修分をどう確保すべきかの議論において、履修主義から修得主義への転換という考え方を導入の可能性について示しているのではないだろうか。

3つ目のオフキャンパス教育は、大きく職能資格取得のための徒弟制度(アプレンティシップ)期間の一部を高校カリキュラムに当てはめたものと職業体験を目的としたものとに分類され、両者とも、その目的は教室内で学んだことを、実際の職場でどう適用されるのかについて、理解し同時に理論的な学びの重要性を認識することを目的としている。2009 年に行った現地調査では、これらのプログラムを履修していた生徒への聞き取り調査を行い、この理論と実践の統合を裏付ける発言を得ることができた。「ヘアースタylistとして仕事をこなすには、特に、科学の知識が必要だということを常に認識する。特に、エステや美容師の仕事で使うものには、化学で学んだことの応用があると考えている (p.208)」という生徒の話聞いたのは 10 年以上前のことであるが、あの時の衝撃はいまだに鮮明な記憶が残っている。この生徒の発言から、学びの意味を認識することで抽象的な学習への目的意識と意欲を高めることにつながるということを改めて認識した。そして、学びの場が学校内だけではなく職業の現場においても有効な学びの場が存在するとも言える。現在、高等教育への進学率が上昇している日本において、様々な入試改革が行われ、それによって高校以下の知識偏重型教育を改革しようとする動きが進められてきた。しかし、それらの多くは、しっかりとした成果を出すことなく途中で変更を余儀なくされている。学びの意味を学習者が認識できるような仕組みが求められているのではないだろうか。

最後に反省点を述べる。終章でも書いているが、本書で足りなかったこととして、実践レベルでの具体的な取り組みについての分析が不足していたこと、また、学習者に対する聞き取り調査は限定的であり、それによって全体を総括するには足りないことなどが挙げられる。また、日本国内の高校教育の取り組みについては、自分の勤務校での経験の域を出ていなかった。大学教員となった 2012 年以降も、筆者はカナダ・アルバータ州をフィールドに調査を継続しているが、国内の調査については、いまだ十分とは言えない。この点については、改革原理の普遍性を追求する意味において、もっと深める必要があると感じている。

高校教育の現場は、日々変化している。アルバータ州においても、何度か州政府の政権が変わり

公教育における基本姿勢も変わっている。特にグローバル競争の進展に伴って、社会経済的格差が広がり、社会包摂や社会正義をいかにして担保するかという課題が高校教育の現場でも生じている。日本の高校教育の現場でも同様の問題が深刻化している。現在、本書で取り上げた STW プログラムが困難を抱える若者への学びの機会の保障というテーマに基づき、カナダの研究者の協力を得ながら研究を進めているところである。できるだけ早くに、これらの研究の成果を発表できるよう努力したい。

【本書の構成】

序 章 本研究の課題と方法

第 1 節 問題の認識

第 2 節 日本の高校教育をめぐる議論について

第 3 節 学校から職業社会への移行（STW）プログラムに関わる研究

第 4 節 本書の構成と研究の方法

第 1 章 アルバータ州における職業教育発達の歴史的経緯

第 1 節 アルバータ州における職業教育発達の歴史的経緯

第 2 節 中等教育プログラムの見直しと CALM の成立

第 3 節 80 年代職業教育の見直しと新たな科目の開発

第 4 節 まとめ

第 2 章 アルバータ州における STW プログラム成立の背景

第 1 節 企業から教育への要求

第 2 節 アルバータ州における教育へのビジネス参加に関わる動向

第 3 節 STW 推進のための動き

第 4 節 STW 成立の経緯のまとめ

第 3 章 2010 年現在のアルバータ州における高校カリキュラムと教育制度

第 1 節 アルバータ州における教育システム

第 2 節 アルバータ州の教育行政システム

第 3 節 アルバータ州における高校教育カリキュラム及び教育制度のまとめ

第 4 章 Career and Life Management（CALM）における生徒のキャリア形成支援

第 1 節 CALM のカリキュラム構成

第 2 節 CALM の実践事例について：メディスンハット高校

第 3 節 キャリア形成における CALM の評価：ジャスパープレイス高校でのアンケート調査

第 4 節 まとめ

第 5 章 新たな職業教育プログラム—Career and Technology Studies（CTS）

第 1 節 CTS のカリキュラム構成

第 2 節 CTS のカリキュラム展開事例

第 3 節 CTS の評価と考察

第 4 節 CTS のまとめ

第 6 章 オフキャンパス教育

第 1 節 オフキャンパス教育のカリキュラム編成

第 2 節 オフキャンパス教育の展開事例

第 3 節 オフキャンパス教育のまとめ

終 章 本研究の概要と意義

第 1 節 本研究の概要

第 2 節 本研究の意義

第 3 節 日本の高校教育への示唆

第 4 節 本研究における課題と今後の展望

あとがき